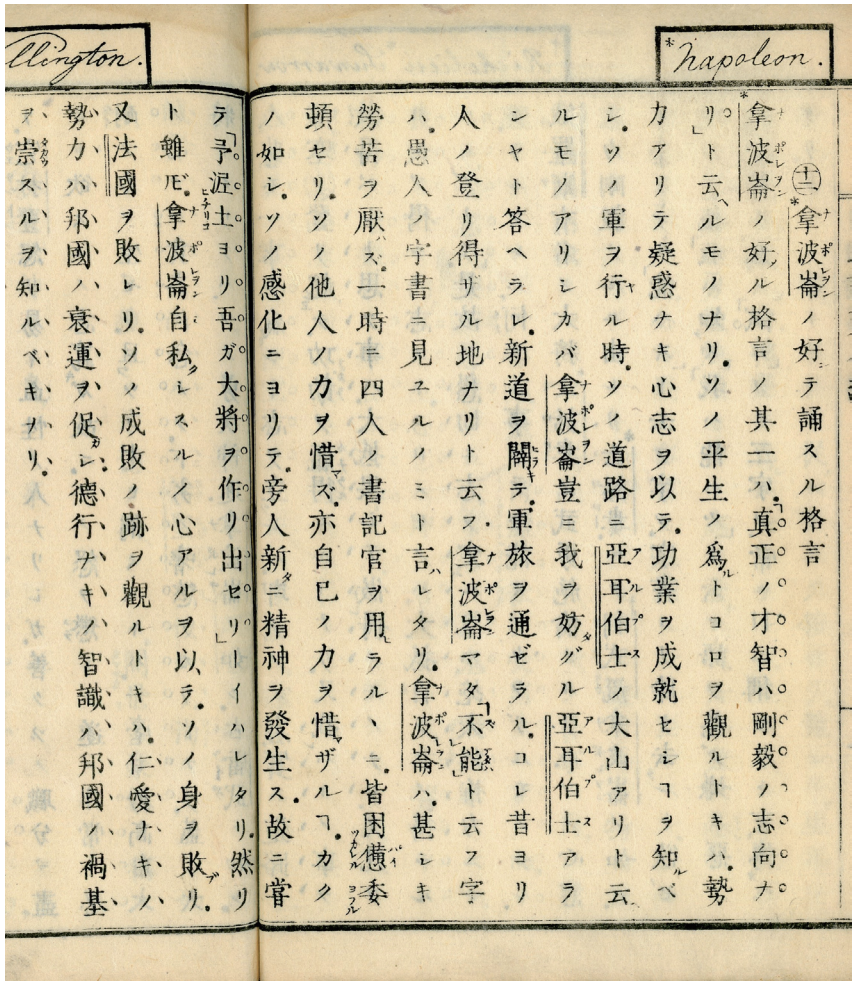
ナポレオン



＊文書館図書375「西国立志編 第6冊」

解　説

左の写真は幕末・明治期の啓蒙思想家，中村正直が訳した「西国立志編」です。原書はイギリス人スマイルズの「Self Help（自助論）」で，「天は自ら助くる者を助く」の話から始まっています。西洋の歴史上の人物の成功譚を数百人分載せたいわゆる自己啓発本で，福沢諭吉の「学問のすゝめ」とともに明治初期の青年たちに大きな影響をあたえました。

この本では政治家・軍人・学者・発明家など色々な分野の人が取り上げられ，ナポレオンについても様々なエピソードが紹介されています。

「剛毅」について論じた部分では，「不能ト云フ字ハ愚人ノ字書ニ見ユルノミ」という彼の格言を紹介し，その意思の強さを評価しています。その一方で，ナポレオンには私心があったため，結局は身を滅ぼしたのだとしています。そして，ナポレオンを破ったイギリスの軍人・政治家であるウェリントンを真に国民を愛した人物として高く評価しています。

＊「仏郎王歌（フランスおうか）」（写真右）は，江戸時代後期の儒学者頼山陽がナポレオンを歌った詩です。山陽は1818（文政元）年の長崎遊学の際にはじめてナポレオンのことを知り，詩にしました。著名な学者であった彼のこの詩は，ナポレオンの名を日本に大いに広めました（吉田樟堂文庫679「頼山陽詩集」）。

佛郎王歌。

佛郎王。王起二何處一大西洋。太白鍾精眼碧光。天付二韜略一鑄二其腸一。蠶食歐邏東拓レ疆。誓以二崑崙一爲二中央一。國內遊手收編行。兵無二妻子一武遽遽。縮レ梃爲レ銃伸爲レ槍。銃退鎗進巨撞搪。所レ向無レ前血玄黃。獨有二鄂羅相頡頏一。潛遣二諜賊一懷二劍銛一。王覺故與レ之翱翔。能刺刺我不レ能レ亡。汝主何不二旗鼓當一。遣客卽發陣堂堂。絨旗蔽レ天日無レ芒。五戰及レ國我武揚。鄂羅如二魚泣一釜湯一。

目次に戻る